

保 健 体 育

第 1 節 概 要

昭和40年度は、昨年のオリンピック東京大会開催のあとをうけて、東京大会の反省が国民の間に真剣にとりあげられた年であった。その中で最も顕著なものは国民の体位、体力の向上の施策をたてることであった。これがため、国においては、栄養の改善や妊産婦、乳幼児の保健の向上、スポーツの振興などによって、根本的に日本人のからだづくりをやりなおそうという考えから、昭和39年12月、「国民の健康、体力増強対策」を閣議で決め、40年3月には、全国関係諸団体の参加を得て、「体力づくり国民会議」を設けた。これに呼応して、本県においては、「体力づくり福島県民会議」が40年10月に結成され、全県的な行事がいくつか実践されてきた。

保健体育課の施策も、保健、給食、体育の各分野において広く県民の体位、体力の向上のため各般にわたる活動を行なった。概要は次の通りである。

1 各出張所保健体育担当者会議

保健体育課の施策の基本方針および各実施事項の要領等の打合せ、ならびに実施の反省と今後の改善策について2回の会議を開催した。

- (1) 昭和40年4月30日、5月1日 於 県庁
- (2) 昭和41年1月7日、8日 於 飯坂

2 学校体育の振興

体育の研究指定校を中心として、地域全体の学校体育の向上をはかった。また、文部省主催の各種講習会への派遣や出張所単位の体育実技、水泳管理講習会スキー講習会等により、指導者の資質向上につとめた。スポーツテストの実施については本年度は第2回目として、小・中・高校、一般勤労青少年を対象として行ない、その実態はあくにつとめた。

3 一般青少年スポーツの振興

各市町村の体育指導委員の活動の活発化をはかり、スポーツ人口の拡大につとめた。また、スポーツ教室の開設を促進し、住民のスポーツの普及につとめた。特にスポーツ少年団の活動内容の充実をはかるとともに第1回県スポーツ少年団大会を開催した。

4 競技力の向上

国体、全国高校体育大会の成績向上を努力目標として、各競技種目とも選手の競技力向上につとめた。岐阜国体においては、天皇杯第16位、皇后杯第37位を占めた。また、高体連、中体連においても大いに競技力の向上にあたり、特に中学校生徒の成績は著しいものがあつた。

5 水泳プール建設国庫補助事業

国庫補助による水泳プールは、昨年15から19の設置をみた。プールの総数は小・中・高、市町村民用等を合わせて141となった。

6 スポーツ振興審議会

本年度は3回の審議会を開催した。審議の中心をなすものは、本県スポーツ人口の拡大と、選手の競技力向上対策、体育施策の拡充整備、指導者の育成と適正配置、体育組織の拡充、体育科コースの設置等であったが、特に、本県のスポーツを飛躍的に発展向上させるためには長期にわたる将来の目標をもつことであり、このためには国体を誘致することである、とされ、活発な意見が各開催ごとに叫ばれた。このことは本県にとって極めて重要なことであり、また大へんな事業である。

7 学校病対策の強化

トラホーム、寄生虫、むし歯、近視について、学校関係者の理解を深めるため講習会を開催した。また、要・準要保護児童生徒の学校病の治療に係る事務講習会を開催し、その事務の円滑な運営をはかった。

8 学校安全の徹底

学校安全会の給付結果からみると、事故災害が多発している現状にかんがみ、水死事故防止、交通事故防止など学校における安全管理と安全教育の強化をはかった。また、東北・北海道学校安全研究大会を開催し多大の効果をあげるとともに安全に対する理解とその実践強化をはかった。

9 教職員の健康管理の強化

結核についての健康管理については、県内全教職員の間接撮影を実施し、有所見者に対しては直接撮影をし、さらに精密検査を要するものに対しては直接面接指導をするなどその管理と指導の強化をはかった。

10 学校環境衛生の維持改善

本年度文部省から学校環境衛生の解説がなされたので学校管理者である各市町村教育長・校長・保健主事に対してその趣旨の徹底をはかった。今後は学校薬剤師の指導の強化がのぞまれる。

11 へき地巡回診療の実施

山間へき地校は医療機関から遠く、学校保健がおくれがちであるので、へき地校に専門医を派遣して、へき地の学校保健の管理や教育の強化につとめた。

12 学校給食関係者の資質向上